

メキシコだより 2月号

川田 佑樹

この2月で早くも留学の折り返し地点を迎えました。光陰矢の如しという言葉がありますがまさにその通りです。スペイン語では“El tiempo se va como agua”と言われ、直訳すると「時間は水の如く去る」という意味になります。あと少しでこの地を後にすると考えると寂しいですが、もっと楽しんで充実させたいです。さて今回はミチョアカンへの日帰り旅行と近況について書きたいと思います。

ミチョアカン

ミチョアカン州は西部は太平洋に、東部は山に面しておりメキシコシティからもアクセスは悪くないです。約4時間ほどバスに揺られ到着しました。今回の目的はカリフォルニアからメキシコへ大移動をすることで知られているオオカバマダラの見学でした。これらの蝶は冬をメキシコで過ごし、2月から3月にかけてこの地をとり立ち、元いた地へと戻ります。ただ、戻る際は数世代の世代交代をしながら向かうため到着する種は出発した種とは異なるようです。また、なぜかはまだ解明されてないのですが、祖先と同じルートで帰っていき先祖の生まれた同じ木へ戻ること



もしばしばあるようです。鮭のような話ですが世代が変わってもなお同じ木へと戻る習性はとても興味深いですね。時々この種の蝶は風に流されメキシコやアメリカではなく大西洋を渡ったスペイン、イギリスや迷いすぎたものだと日本まで飛んで

くる場合もまれにあるそうです。

多くの写真、動画がインターネット上にあり、自分もたくさん撮りましたがそれを見ていただくよりやはり実際に見てもらいたいです。



近況

この2月末をもって1年を通して5つあるセメスターのうちの3つが終了しました。街中、メトロ、バスの中での他人の会話が少しずつ聞き取れるようになり、友人との会話がちょっとずつ成長し、テストでも少しずつ点が取れるようになりました。ただ、まだ話すときには自分のボキャブラリーの不足を感じるなので、そこはもっと努力が必要だと感じています。

話は変わりますが、11月号に紹介した通り私はサッカー観戦が好きで、近所にあるアステカスタジアムに行きたいと切望していたのですがその願いが今月ついにかないました。

アステカスタジアムは1966年、2年後に行われたオリンピックのために作られたスタジアムです。最大収容人数は87000人のこのスタジアムではワールドカップも行われ、サッカーファンではない方もおそらくご存知な1986年メキシコワールドカップ準々決勝イングランド戦で当時アルゼンチン代表の10番を背負うディエゴ・マラードーナが神の手と五人抜きを行い勝利した場所でもあります。現在はメキシコシティを拠点にしているクラブアメリカと、メキシコ代表が国内で試合する際に利用

されています。サッカー専用スタジアムということもあり非常に見やすくピッチとの距離が近いので、選手の声も時々聞こえます。メキシコのチケットを買うシステムは日本とは異なり、試合のある週の月曜に金額(対戦相手によって異なり、3倍近く変わる時もある)等が発表となり、その翌日くらいからチケット売り場で購入できます。この国はダフ屋が蔓延していてインターネット上で買うと通常の数倍で売られていることも頻繁にあります。また、チケット売り場の近くにもたくさんいて「Boleto, boleto」(スペイン語でチケットの意味)と話しかけられたりします。

クラブアメリカのレベル自体は UNAM の所有しているプーマスより少し高い感じですが。後日調べて気づいたのは南米の国の代表に名を連ねている選手が多かったことです。

このような調子で自分な好きなことを通じてスペイン語力を伸ばしていきたいです。

